

第3回 明舞まちづくりワークショップ

『テーマ：明舞団地の未来について』

主催：兵庫県、明舞まちづくり推進協議会、
NPO 法人神戸まちづくり研究所
協力：京都大学大学院高田研究室

日時：2003年11月9日（日） 13:02～16:07

場所：明舞センター（松ヶ丘ビル3階 大会議室）

参加者：地域住民29名（神戸市/16名、明石市/4名）、団体・NPO等9名
スタッフ26名（兵庫県6名、京都大学学生8名含む）

全体進行を野崎氏（神戸まちづくり研究所）ワークショップ進行を辻氏（環境緑地設計研究所）
総括コメントを高田先生（京都大学）シナリオ説明を西野氏（京都大学高田研究室）各グループ
のファシリテーターを中川氏 [1G]、松原氏 [2G]、田中氏 [3G]、吉川氏 [4G]、山本氏 [5G]、山
本(一)氏 [6G] が務め、各グループのアシスタントを京都大学学生が務めた。

テーマタイトル：“3つの未来・私はこうする”

まちのシナリオA 居住者が多様化するまち（緑色）

まちのシナリオB 高齢者に住みよいまち（黄色）

まちのシナリオC 企業が進出するまち（赤色）

1. はじめに

(1) 主催者挨拶（西中須氏：明舞まちづくり推進協議会）

本当にわがふるさと明舞団地と言えるようにしていきたいと思っておりますので、今回も楽しく忌憚のないところをみなさんと意見を出し合うことができればと思っております。最後までご協力よろしく願いいたします。

(2) 前回の振り返りと今日の予定（辻氏）

本日のワークショップはこれまでとはすこし違ったやり方で、もしこのまちが将来こうなったら皆さんはどうするのかというようなことについて話し合う。たとえばこうなったらという未来を3つ想定しているので、皆さんにそれらから1つを選んでいただき、「その時、私なら多分このように行動する」ということをグループで話し合う。そして、よい未来にするために何が課題か、自分は何をしていくべきかについて、それぞれの立場や得意技などを考え合わせて話し合い、それをグループごとに発表していただく。

前回は、「明舞団地の環境を考える」というテーマだったが振り返ってみると、1班「むくどりチーム」は、野鳥の住むきれいなまち（ビオトープを活用）にしていきたいという話になった。主に神陵台の方面の方々でしょうか。野鳥とか公園の管理についての意識が高かったようだ。2班「人づくり環境づくりチーム」は、住環境は住民の財産だ（たとえば東谷公園）ということを中心に話し合いが進められたようだ。3班「まずは人を集めようチーム」は、明舞団地の活性化のためには、人が集える場づくりや地域のボランティアネットワークが大事だというご指摘があった。4班「根気よく考えて住みよい明舞団地にしたいんやチーム」は、神戸と明石に分かれているが明舞団地は1つで、バリアフリーや安全上の問題、駐車場の問題などいろいろな問題があるが、ワークショップをする中で一歩ずつ前進しているのではないかという意見があった。5班「明舞・海の手団地チーム」は、団地環境を改善するために、明舞・海の手団地というキャッチフレーズを設けて人口を増やしていくことや、地下鉄を誘致するなどの交通アクセス、また、公園の安全性などについての意見があった。

(3) シナリオ・アプローチの趣旨説明（高田氏：京都大学大学院教授）

先ほど辻さんよりお話があったが、3つのまちの将来像を「3つのまちのシナリオ」と言っているが、それをスライドでお見せした後で、皆さんに「個人のシナリオ」を考えていただく。自分自身が主人公になっているドラマの自分のシナリオ、たとえば将来、Aというまちのシナリオになった時、自分はどうするのか、どういうふうに暮らすのか、どこに住んでどういう生き方をするのかを考えて発表していただく。難しそうだが大丈夫です。まちのシナリオA、B、Cのそれぞれの違いをご理解いただき、それを前提として自分のシナリオを描いてみてください。多分こうするというのではなく、こうするんやという“確信犯”をお願いします。

2. 自己紹介

テーブルごとに、「自己紹介シート」（名前、住んでいる場所、住宅種別、家族構成、まちの現状に対する満足度とその理由を記入）をつかって自己紹介を行った。

3. 3つの未来（シナリオ） あなたならどうするゲーム

(1) 3つのシナリオの位置づけ説明（西野氏：京都大学大学院）

3つの未来の前提について説明する。1960年代頃からまちの開発とともに急激に人口が増え、1975年頃から徐々に減少しており、今後も少子高齢化の現象が明舞団地の人口にも影響を及ぼすと考えられる。住宅の更新は、県営住宅では行われているが、公社分譲住宅・公団や公社の賃貸住宅では、ほとんど行われていない。住宅調査では、狭い・老朽化などの不満があった。明舞センターは、さびれているという話が多いのだが、最近では、NPO団体による「明舞憩いのスペース事業」などの活動が空き店舗利用で行われている。まちの環境は、明石海峡大橋の景観に代表されるように美しい景観ということで意見が統一されているようだ。公園も美しく、ゴミも落ちていないのだが、ほとんど人がいない。でもまちを歩いていると掃除をしている方が結構おられる。

それでは、2013年、『居住者が多様化するまち』から紹介する。（詳細は、まちのシナリオ比較表参照）

まちのシナリオA『居住者が多様化するまち』

住宅の更新がこのシナリオのなかでは重要になっている。家族が多様化し郊外に人気が集まり、子ども・若者・中高年のいろいろな世代が明舞団地にやってくる。

まちのシナリオB『高齢者に住みよい町』

全国的な家族の多様化の流れで都心に人気が集まり、若い世代が出て行き、高齢者を中心としたまちになる。

まちのシナリオC『企業が進出するまち』

高度情報化社会が形成され、明舞団地にも企業が進出してくる。その影響で、働く若い世代がやってくる。

<まちのシナリオ比較表>

	居住者が多様化するまち	高齢者に住みよいまち	企業が進出するまち
人口	あまり減少しない	減少	徐々に減少
少子高齢化	徐々に深刻化	深刻化	あまり深刻化しない

住宅の更新	間取りの多様化中心 住戸数の増加	バリアフリー化中心	間取りの多様化中心
資産価値	建替えた分譲は上がる が、戸建はやや下がる	更新された分譲は上がる が、戸建は下がる	建替えた分譲は上がり、 戸建は維持される
明舞センター	すこし活気がでる	活気はあまりないが高齢 者向けサービスが充実化	活気がでる
まちの環境	すこし悪化	現状維持 人通りは減少	悪化
居住者間コミュニケーション	あまり活発化しない	活発化	活発化しない
その他	多様な価値観の違いから 多少摩擦が生じる	高齢者の文化活動が 盛んになる	職住一体型のまちへ

(2) まちのシナリオと個人のシナリオの作成

まちのシナリオ A、B、C に紹介された 3 つの未来が、実際に明舞団地に訪れたと想定して、それぞれの未来ごとに、「その時、どこに住んでいるのか?」「誰と住んでいるのか?」「なぜこのような選択をしたのか?」「町の状況に対する満足度(10点満点)と理由」を「個人のシナリオシート」に記入し、グループ内で発表する。次に、「みんなのシナリオシート」に各自の発表内容をまとめ、「まちの再生のために自分は何をするのか?」を付箋に書いてシートに貼付し、グループ内で話し合う。

		各シナリオに対する満足度 10点満点		住んでいる場所		同じ場所 明舞団地内の別の場所 x 明舞団地外の別の場所			
G	住宅種別	シナリオ		まちの再生のためにあなた自身がする行動					
	公社分譲	A	8	x	みんなに働き掛けて、まちのコミュニティを...	<input type="checkbox"/>	みんなに働き掛けて、まちの活性化を...		
		B	4						
		C	6						
	名舞センター	A	6		町をよくするための1人であっていきたい。	設計者としての再生の工夫を考えて行きたい。	町が活性化するように参加したい。		
		B	8						
		C	8						
	名舞センター	A	7		ずっと NPO 活動を続けて行きたい。	高齢者による高齢者のためのボランティア活動を手伝う	NPO 活動を続けたい		
		B	7						
		C	8						
	公団賃貸	A	8		自治会の仕事を続けたい。	<input type="checkbox"/>	環境悪化防止のためになにかをしている		
		B	0	x					
		C	8						
	公社賃貸	A	6		雑な人の流入コミュニティを難しくする	人が多い街としての潜在能力が高い	高齢者が多くコミュニティが活発 住み良い街 魅力的な街		若い人が増えるのは良い。良い企業である事が必要...
		B	8						
		C	8	x					
	戸建住宅	A	8		働く場が増え若い町に活気 up 住み心地 up		孫世代が住まないのでは?	文化活動は活発に	コミュニケーション悪化 生活しやすい場に移る
		B	7						
		C	6						
	公団賃貸	A	7		同時に街も活性化して欲しい	新居住者とのコミュニケーションの受け皿が欲しい	高層階の人は家の中ばかり?	環境は悪化しないで欲しい 見守る	住んでいる人や働く人たちを受け入れられるよう
		B	7						
		C	7						
	公社分譲	A	6	x	住みにくそう。人を集める町づくりが可能なのか? パラパラに?	コストとのかね合い	やさしい住環境 年齢関係なく やってほしい	必然的に人が集まる 活性化	企業の選行と場所 同じ場ではまずい
		B	8						
		C	7						
	外部	A	100		いろんな人が住む街 異世代 = 良い街	いろんな人が住めるよう NPO が協力する	みんなで支え合っている街づくりが前提	静かな環境、理想モデルを作りたい 10点	なぜ今さら企業なのか? 人に頼る街づくりは嫌だ。コミュニティビジネス
		B	101						
		C	0	x					

戸建住宅	A	8		センターの活性化が必要 ニーズをつかんだ経営が必要			企業が集まるのは好ましくない	住むための場所にしたい 生産活動の場ではない
	B	6						
	C	4	x					
戸建住宅	A	9		高層化 人口増 交通の心配	ボランティア活動で地域に貢献 A,B,C全般	バリアフリーの推進はいいが、若年層の流出に歯止めをかけなければ	環境 マイナス 活性化はOK	
	B	8						
	C	8						
公社分譲	A	8		自治会活動で摩擦はなんとかなる。 バザーなど住民が仲良くなるもの	先のことを考えるとコミュニティの維持不安。活動もおこせない	ケア付分譲と いったウリをつくる		
	B	7	x					
	C	10						
公社分譲	A	6		建て増しして利益を生む手法には反対。 住民が現在の密度で住みつけられるような法制度が必要	高層化 天空率下がる - 地価 ... 若者には有利。若者をよびこむ	高層化がさげられる 評価 安くて便利な明舞は捨てたものではない	交通量がふえるような企業 x コミュニティビジネスのようなもの	高層化して、誘致することには反対
	B	7						
	C	6.9						
戸建住宅	A	7	x	世代間の摩擦 歩みよりが必要	人通り少ない、しずかなどは評価。 さびしい、治安悪化。 高齢者の一元的価値の形成 歩みよりx		企業進出 活 気・治安 環境対策に企業の協力を要請	
	B	6						
	C	8						
戸建住宅	A	7		子どもさんとの生活を 楽しみ、環境づくり をしたい	お年寄りが自己実現する ばをつかっていく	コミュニティサービスをつくる、呼んでくる	コミュニティサービスを積極的に利用する	SOHOを利用 仕事をしたい そして 自己実現する
	B	5						
	C	10						
県営賃貸	A	8		悪くならないため 予防する活動 みんなにマナーを守って もらうようにする	高齢・低所得者に ふさわしいマナーの 守れる人と住めるように する	自分の趣味を中心とした 生活をする	マナー問題に対して 取り組む	
	B	9						
	C	8						
名舞センター	A	9		高齢者が障害され ないようにする ために「食」を通して の活動	世代間交流事業の 展開	生きがいを与えるための 「NPO活動」をすすめる	歴史を感じられる まちづくり（建築的にも）	明舞センター 以外の活動の場を さがす
	B	7						
	C	8						
公社分譲	A	10		まちづくりの活動は若い 人とともにしていく	団地外での活動を生活の 中心にする	自分の近くの企業進出には 反対する		
	B	7						
	C	5						
公社分譲	A	7	x	施設・バリアフリー、 利便性が整えば永住。 そうでなければ明舞 を出る	老若が共に活動する ことが必要	第三次産業（サービス・ 介護）であれば参加・ 利用できる		
	B	6	x					
	C	8						
戸建住宅	A	6		不満はあるが 永住する	人づくりがほしい。	友人づくり	生きがいの創造	個人の方ではどうにも ならない。自分の幸せを 追求する
	B	6						
	C	5						
公社分譲	A	0	x	x		福祉関係企業 であればよい		
	B	0	x					
	C	5	x					
戸建住宅	A	6		家から外へ出る 機会を多くしたい（イ ベント等）	老人ホームがほしい 老人の居場所がほしい			
	B	8						
	C	9						
公社分譲	A	8		高齢者が若い世代を 支援する。外国人の方も 積極的に受け入れるべき （各国語での案内作成 など）	開き直れば気楽な生活が できるのではないかと 思っている	コミュニティを積極的に 活性化したい	高層化で土地が余るの だから、IT企業（業種 を選ぶ）などに活動の 場を与えてもいい	職住一体型のライフ スタイルを行っていき くべき
	B	9						
	C	10						
公社分譲	A	7		今でも隣が分からない コミュニティなのに、 自己中心的な人が増え てくのではないかと 思っている	コミュニケーションをと れる場が欲しい	高齢者だけでなく、若 い人と接触できる環境 が必要	企業の人と住民の コミュニケーションの 問題はあ	企業の人に出資して もらい、街の施設が 充実すること もいいのでは
	B	7						
	C	7						
公社分譲	A	9		多様化に伴い活発化 する。建替えによる環 境の改善が良	生活がさびしくなる ことと住居以外のバ リアが残るの は問題である。	交通量の増加で、 安全面で問題	マナーの悪い人が 増加するのは問題	
	B	7						
	C	7						
民間分譲	A	7		街に動きが出て よい。子供会の活 性化がよい。	新旧の住民間の コミュニティの創造 が課題	バリアフリー化が 進むが、さらに先 を考えると高齢者 のみで考えるのは どうか？	企業と住民の良好な 関係が築けるのか？	商店街の活性化は よい
	B	6						
	C	6.5						
公社分譲	A	10		高層化でEVがつくと バリアフリーが改善 されるので、自分 にとって良くなる	お年寄が増えると 街が暗くなる。よ って悪くなる。	住むということ を一番に考える べきである。	企業を呼んでくる というの は、反対である。	
	B	8						
	C	4	x					

4. まちの現状の課題を話し合う

(1) グループワーク (KJ法)

まちのシナリオ A、B、C から各自 1 つを選択し、「望ましい未来にするためにまちの何がどうなったらいいのか?」「そのためにあなたは何をしますか?」ということ話し合う。
(グループワークの結果は [5.まとめ] の [(1)グループからの発表] を参照)

5. まとめ

(1) グループからの発表 (各グループ 3 分で発表)

1G	<p>「企業が進出するまち」について、住居環境はどうなるのかについて考えた。バリアフリーをすすめて、部屋数を多くし、住みやすい建物に建替える。環境を守るために低層で建替えてほしい。周囲の設備の整備は、道路環境を良くするなど、できるだけ住民のいろいろな人の声を聞いて付近の改善に取り組んでいきたい。入ってきた企業と住民の交流の場をできるだけ作り、自治会・公共団体を通じて企業と話し合いをしていく。どのような企業に入ってもらうかについても、住民の意見を取り入れてほしい。企業誘致のために「特区化」して、税金面などの優遇措置を設けるなど、県でも検討をしていただきたい。</p>
2G	<p>これからの新しい暮らし方の提案ということで考えた。3つの未来では、「高齢者に住みよいまち」のやさしく安心して住めるまちづくりが人を集め、人が集まることで企業や商店が集まってくると考えている。まず、住民参加型の自主自立・協働の意識を高める。言うだけではなく行動することが前提。次に、NPO やボランティアを育て、NPO・行政と地域住民との協働によるコミュニティビジネスセンターや、既存の住宅を活かした仕事の場づくり、人づくり、仕事づくりを図っていく。高齢者や障害者、また外国の方とか、いろいろな方がいるので、情報の共有化を図る。それぞれの得意分野を活かして自分にできる仕事を考える。行政にもイベントの場などを提供いただくなど、交流の場をつくる。交流の流れができてくれば、そこに企業や商店が進出し、まちが活性化するということになる。</p>
3G	<p>人口の増加、特に若年層の増加が将来の可能性を拓げ、明舞センター全体、商店街全体の活性化につながるのではないかと。コミュニティ活動に参加する企業を誘致することも活性化につながる。地価が下がると若い人も入ってきやすくなる。しかし、人口が増え、企業の進出による交通事情の悪化を防止する必要がある。このような状況の中で何ができるのかについては、イベント(まつり、夜店)を充実して子どもたちに夢を与えていく。また、若い人たちの親子のふれあいの場づくりとして東谷公園を魅力的な公園にしていく(「蛸の里づくり」etc)。小・中学生とまちの将来について深く話し合える場をもってはどうかなど、このような合意形成の仕組みづくりが必要ではないかという意見があった。</p>
4G	<p>この団地で一番ほしいものは何か。一つは、自己実現できる場所が無い。二つ目に、コミュニケーションの楽しさが無い。三つ目は、都会的な賑わいが無い。その理由は、人口が減っただけではなく、仕事が減ったことがあげられる。これからの社会では特に自己実現が大切である。生涯学習だけではなくコミュニケーションが大切で、そのために明舞センターを徹底的に変える。NPO がやっとなできているが、コミュニティビジネス(サービス)の場が無い。将来、身体が動かせなくなっても、運搬、掃除、外食などのサービスができるコミュニティビジネスが必要である。これには建替えが必要で、居住空間と交流できる場所とを完全に分ける。自治会も公益事業の取り組みなど意識改革が必要である。</p>
5G	<p>「居住者が多様化するまち」の場合、その場所が無いのではないかと課題として話し合った。「ふれあう」ということがこのまちには大変必要であり、子どもと高齢者、若</p>

	者と高齢者、そして成人といった多世代の交流が大切であるが、気軽にふれあう場所が無い。集会室も有料でかなり高いといったことが問題になった。その場所をつくるためには、若者が明舞団地に足を運んでくれるようなセンターの機能、たとえば、多目的ホールや健康施設、コミュニティレストランといったものが必要ではないか。また、高齢者がかかえている年金や相続、健康などのいろいろな悩みについて、専門家やボランティアに相談できる窓口をつくること。元気な高齢者には、働ける場や知恵を出し合える場を設けてその力を活性化していく。あるいは、保育所の整備をして、特に女性が働きやすいようにすれば、若い人も住みついて活気づいてくるのではないかと。以上、ふれあいがキーワードであった。
6G	コミュニティ活動をどんどん拡充してやっていかなければならないのだが、すべてはコミュニティ活動。コミュニティ活動を盛んにすることによって、将来いろいろな問題が解決されるのではないかと。建替えもコミュニティから、商店街の活性化もコミュニティの活動からということ。簡単だが、このようなまとめになった。

(2) 今日のまとめ（高田氏）

4つの話をさせていただき、最初はお詫びとお礼で、今日は、納得のいかないシナリオを3つも見ていただき、その中で自分のシナリオを考えるという大変なストレスを皆さんにおかけした。まず、そのことをお詫びしたいと思う。それにも関わらず、たいへん建設的な意見を皆さんに出していただき感銘を受けている。特に「個人のシナリオ」では、3つのまちのシナリオでは納得がいかないと思いながらも受け入れていただき、大変明確な生き様を語っていただいた方がたくさんおられた。

2番目は、「まちのシナリオ」の高点数のものを集めると、「居住者が多様化するまち」と「企業が進出するまち」のシナリオが4割、「高齢者に住みよいまち」のシナリオが2割だった。今の人口が減るとか高齢化するとかいう大きな流れを素直に受け入れながらも、その中でより良い生き方をしようと考えている方、一方で今の状況を何とか打開しようといういろいろな取り組みを考えている方がおられる。この二者択一は、本当は無いと思うが、こういうやり方をすることで両方の問題がより鮮明になり、逆にこれをどういうふうにくっつけたらいいかという課題が少し浮かび上がってきたように思う。

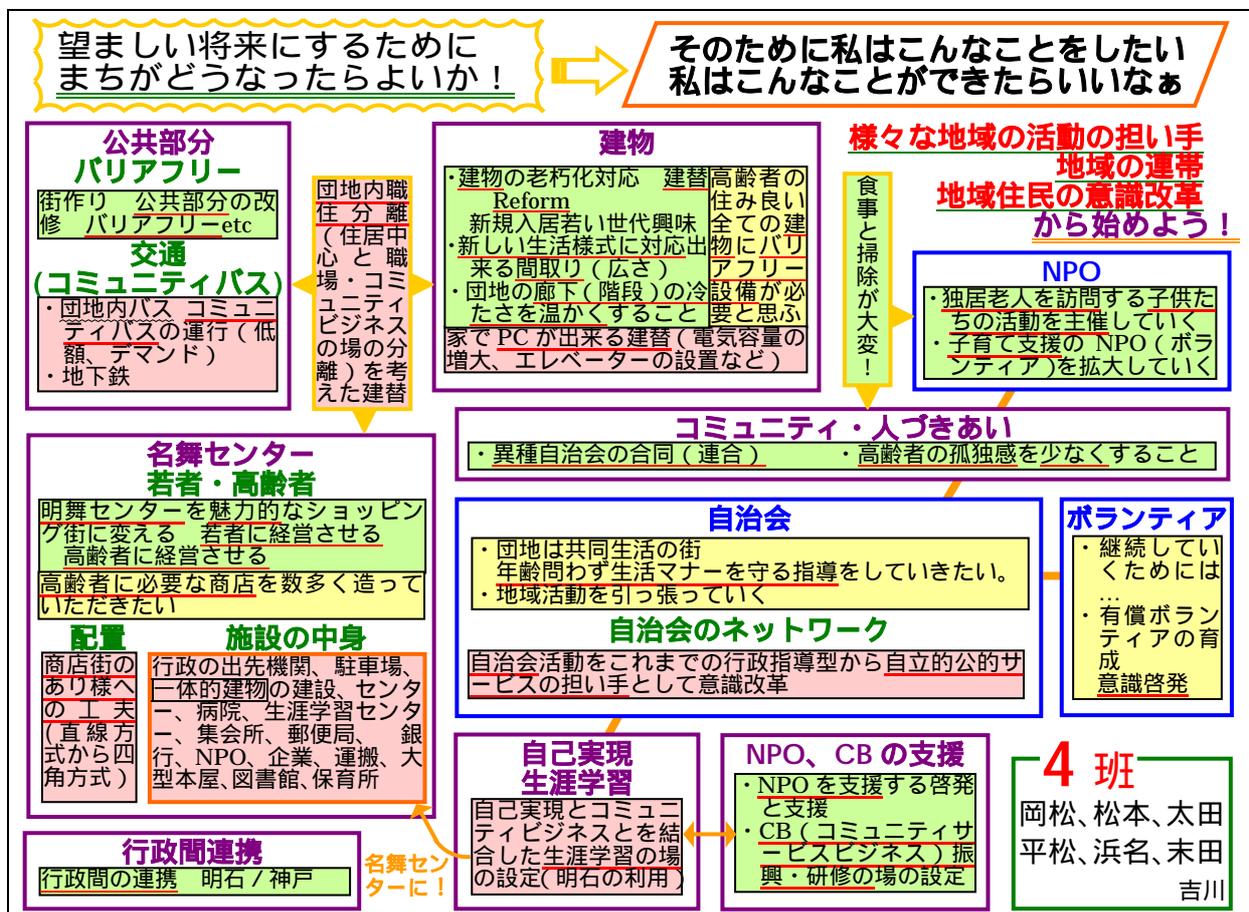
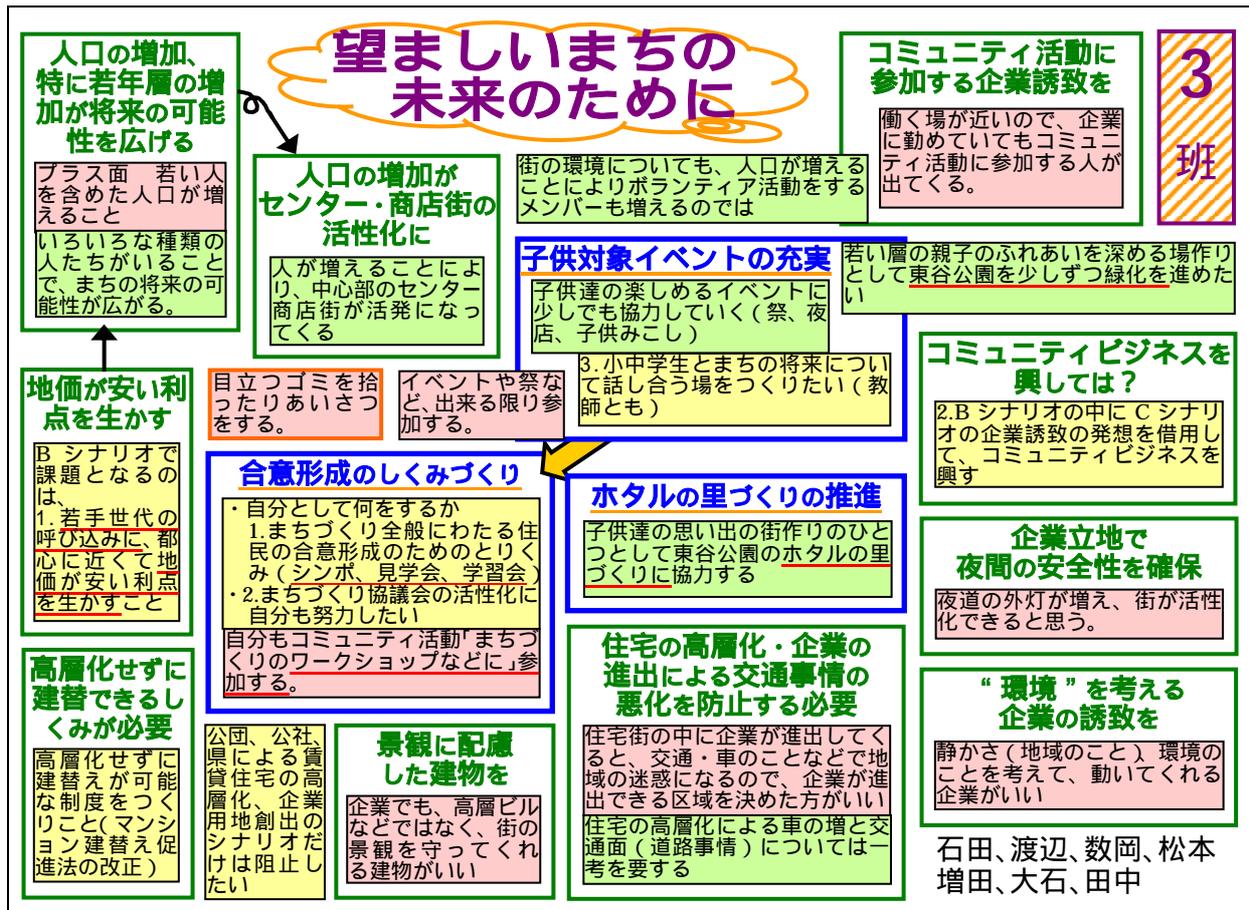
3番目に「個人のシナリオ」では、非常に困難な状態になっても8割程の人が今のところに住んでいる。2割の人は別のところで自己実現をしようと言っておられる。全体として、今日ご参加の方は明舞団地を愛し、まちのために何とか尽くそうという意識の表れだと思う。×印も、こういうふうにならないようにしたいという意思表示だと感じた。

4番目は、最後の発表は明快で付け加えは無いのだが、その中で重要だと感じた点が4つある。1つは、センターや住宅の建替えや改修はまちづくりの中で考えないといけないということだ。2つ目は、いろいろな人々の交流の仕組みや空間といったものをつくらないといけないこと。3つ目は、コミュニティビジネスというキーワードを出していただいた。4つ目に、住民の方の意識改革から始めないといけないというご指摘もあった。

今日の皆さんの発表はすごく高水準で、これを他の住民の方に広げていく仕組みをぜひつくっていただきたい。今日は、建設的なご意見をいただきありがとうございました。

(3) 次回予定の確認（野崎氏）

今日は今までのワークショップの中でいちばん課題が多く、皆さん、長時間お疲れ様でした。次回のワークショップは12月7日（日）13時30分から、場所はこの北隣の明舞第2センタービル2階の中ホールです。今回は最終回で、いよいよ皆さんの住んでおられる住まいをどうするのかといったことをテーマでワークショップを行う。



5 班

望ましい未来にするために... まちの課題と それに向けて

資金力がない

資金力が無い 住民個々には 知恵と汗で金をかけずに出来る事

河田、森本、永田
三木、入江、山本
中井

多様化、場がない

気がるにふれ合える場所がない
・女性が働くところがなくなる
・集会所が有料

社会の個人化により、それぞれに対する相談所がない
・日常の世話をすしきみがない

・商店街がさびれている
・若者がセンターに来ない。外に買い物に行く

多様化、住民間バラバラ

多様化すると住民間がバラバラに...
・様々なサークル活動があるがふれあいが無い
・住宅の建替で人口増、子供増、企業(第3)増、団地が多様化する
・自治会の組織変更されている

高齢者

高齢者のみがまちの未来を考えても、まちへ活性化しない
・高齢者が元気で働く場所がない
・高齢者の知恵が生かせる場所がない
・高齢者の健康問題に対する専門家がいない

課題 とり組み

場づくり

センター機能を充実させる

・若者が明舞団地に足を運んでくれるようなセンター作り
・多目的ホールを作る。音楽、映画、シバイ etc
・健康施設ビル(プール他)
・食堂(ファミリー用、高齢者用)
・店が使用料及び土地使用料を下げる(来やすい条件を作る)

日常のふれ合いをつくる

・無料の会議室
・よろず相談所
・高齢者が気軽にふれあえる場をつくる
・年金相談、健康などの相談窓口をつくる

イベント 交流 声かけルール

子供たちと若者との交流イベントを計画する。若者が参加するイベントづくり

世代間のよびかけあい、意識改革
・非行を防ぐ。子供に育てる。
・ルールを守る。まち(あいさつ、ゴミ等)様々な世代がまちの未来を考える

高齢者の活動 高齢者のいきがづくり

・高齢者にやさしいまちにするため地域通貨を考えて、小さな手助け仕事の代償にする
・いきいきとくらせるように元気な高齢者の働く場を提供
・高齢者の力を活性化
・シニアの地域活動参加をどうするか。団地内のクラブ活動、ボランティア等を調査しネットワーク化しセンター化するべきだ
・高齢者にやさしい団地に。子供と高齢者が遊べるまち

企業の選択

・専門的企業を誘致する
・24h 営業の企業が来てほしい(銀行カード、郵便、宅配等)
・第3次産業の進出を期待する(第1、第2次はだめ)
・環境施設建設及び管理出来る企業に来てもらう(動物園、博物館、交通他)

企業の補助

・明舞団地活性化の NPO 法人を!!
・企業間のコーディネート
・企業の相談窓口を設ける(相談受ける窓口を簡単にする)窓口の一本化
・明舞団地の全体の再生プランを作成する。計画的に無駄のないまちづくり

行政へ...要望

保育所の整備
集会所など基盤を行政につくってもらつこの団地の空地に福祉のセンターをつくる。特撮、グループホーム、ホスピス

人づくり

ひとりぐらしや高齢者夫妻世帯の人たちの日常をヘルプするボランティア育成
ボランティアを集める

若い人中心のまちづくり。高齢者がアドバイザーとなる
・明るく住みよいまちづくり 人づくりへの意識改革 他人の為、地域の為に
・住人の人間関係の育成。1.ルールを守っているまち

6 班

すべては、コミュニティのために!

商店街の活性化

・無料駐車場の整備
・集客力のある店舗の誘致(ファーストフード、有名ラーメン店)
・商店街の改装(建物が古く個々に改装しても目立たない)
・都心と比べて高い家賃の見直し

企業は業種が大切

・職任接近は良いと思う。高齢者が除け者にならないように配慮しなければ
・昔はほとんどの業種が×だった
創造的知的産業の誘致

マナーが悪化しないように!

中高生の態度。たばこ、飲物、食べ物。人通りが少ない所で後しまつをしなさい。

マナーは幼児時代からの教育が大切

内については案内などしているが、外から来た人のマナーについての指導が問題

ルールを見直さないと、外から人が来づらくなるのではないか

コミュニティ+店舗

・空店舗をコミュニティに
・空店舗を宅児所に

企業+コミュニティ

男性も育児に。職任一体で余暇時間増
企業も金銭及び作業、地域活動の応分負担

自治会ごとに順番で役割分担をし
・清掃(道路、公園)
・イベント
・夜回り等

中心はコミュニティ

・まず近隣のコミュニティも計り深めることが
・文化施設 映画館、図書館等を作って若い人とのコミュニケーションを活性化

世代間交流の為に全住戸の方から自分事を書いて提出してもらおう

現状のコミュニティには、問題有り!

メンバー
吉朝、田淵、瀬川、吉永
米田、尾形、山本(キロク)

A...4人
B...0人
C...1人

望ましい未来に向けて

バリアフリーは重要どころから

・歩道をなおしてほしい。車いすがスムーズに通れるように
・明舞センターや各公園へのアクセス道のバリアフリーの促進

適度にバリアがある方が良いと思う

心のバリアフリー設備にたよらずに人の手で助け合う

バリアフリーもコミュニティから

建替もコミュニティから

全住戸参加の役割分担による検討会の設立

願望しているが、経済的に考えると不可に近い